



2がつの園だよ

富良野市立虹いろ保育所 令和3年1月29日 発行



慌たしいお正月が過ぎ去り、2月がやってきました。暦の上では春ですが、まだまだ、寒い日が続きますね。でも、保育所内は子どもたちの元気な声と笑い声に溢れ、不思議と外の寒さを忘れてしまいます。

父母の会の役員の皆様のご協力により、園庭に雪山が完成しました。子どもたちは大喜びでソリ遊びを楽しんでいます。冬の遊びや楽しみを見つけながら、今月も元気に過ごしたいと思います。お忙しい中、ご協力をいただいた役員の皆様に感謝申し上げます。

今後も卒園、進級に向けての取り組みが多くなってきますので、子どもたちが元気に過ごせるように健康管理を徹底していきたいと思ひます。体調の変化や何か気になることがありましたら、いつでもご相談下さい。ご協力をお願いいたします。

2月の行事

2日(火) 節分

4日(木) 誕生会

5日(金) 4歳児縄跳び記録会

10日(水) 年長児卒園

記念写真撮影

12日(金) 買い物ごっこ

16日(火) 避難訓練



節分

節分は「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味を込めて、悪いものを追い払いよいものを呼び込むために、豆まきをします。

また、節分の日の夜に、その年の恵方(今年は南南東)を向いて、願ひ事を思いながら、一言も話さずに食べると、願ひが叶うとも言われています。



進級まで2ヵ月

新年度(4月)を無理なく過ごすために、少しずつ進級に向けて「できること」を増やしたり、保育士の介助を控えて、一人ひとりの成長を見守っていきたく思ひます。大きくなることへのワクワク感を大切にしながら、子どもたちが大きく成長できる環境づくりをしていきたく思ひます。

お家でも、お子さんのお話に耳を傾け、励ましの声掛けをお願いいたします。



ホッと一息・・・所長

思い返せば昨年の今頃は、新型コロナウイルスの足音が少しずつ大きくなっていった時期でした。現在は、がらりと変わった「新しい日常」の中で私たちが子どもたちにできることは何かを考える毎日です。

子育てワンポイント ～愛着ってなんだろう?～

愛着とは「親子間の心のつながりです」子どもはいつも守られている、いつでも甘えられると思うと安心し信頼して、親を「安全基地」と感じるようになります。

そして、「安全基地」を得られると、子どもたちは色々は「冒険」に出ることができます。

♡♡愛着を育む子育てを楽しみましょう♡♡

❁「スキンシップ」を大切に、たくさん抱っこをしてあげましょう。

❁「親子いっしょ」の経験をいっぱいしましょう。

❁甘えサインを感じたら、「すぐに」応えてあげましょう。「ダメ」ではなく「良いところ」を見つけて褒めてあげましょう。

❁「ありがとう」とお子さんに伝えましょう。

☆テレビ、スマートフォンなどのメディアに「親子の大切な時間を取られないようにしましょう。」

1月のクラス目標

*0歳児(もも)

- ・保育者や友だちと言葉や物のやり取りをしながら関わって遊ぶ
- ・身の回りの事を手伝ってもらいながら、自分でできることに喜びを感じ意欲的に取り組む

*1歳児(いちご・さくらんぼ)

- ・身体を十分に動かし、寒い日でも健康に過ごす
- ・保育者に支えられながらできることは何でも自分でしようとする

*2歳児(ばなな・れもん)

- ・基本的習慣を身につける
- ・順番や交替が分かり友だちと仲良く遊ぶ。

*3歳児(みかん)

- ・生活に見通しを持ち、進んで見の回りの事をしようとする
- ・友だちと一緒にルールを守りながら身体を動かして遊ぶことを楽しむ

*4歳児(めろん)

- ・基本生活習慣を身につけ、生活やあそびの決まりを守り、進級することへの期待を持つ
- ・友だちの気持ちを考えたり、認め合ったりしながら、みんなで遊ぶことを楽しむ

*5歳児(ぶどう)

- ・就学に向けての意欲が高まり、自信をもって過ごす
- ・仲間意識を深める中で、互いの良さを認め合い、協力して目標に取り組む



＝お知らせとお願い＝

☆1月17日(日)父母の会役員の方のお手伝いをいただき園庭に雪山が完成しました。

お忙しい中ありがとうございます。寒さに負けず元気いっぱい冬の遊びを楽しみたいと思ひます。

☆保育所で水痘の発症者が見られています。お子さんの体調変化に留意したいと思ひますので、兄弟で水痘の発症がみられた場合も保育士にお知らせください。

☆登所・降所時は必ずお子さんの手をつなぎ、駐車内では安全に留意いたしましう。

明橋先生の
子育てパパ・ママに贈る
子どもとの関わり方
ワンポイント

子どもに伝わる叱り方

真生会富山病院心療内科 明橋大二

「子どもの効果的な叱り方を教えてください」と、保護者からよく聞かれます。そのようなとき私は、「叱り方も大事ですが、その前にほめ方を知っていますか?」と聞き返すようにしています。実は、ほめ方が上手になるだけで自然と叱ることが減ってくるのです。ところが私たちは、あまりほめ方を知りません。ですから、「叱り方を学ぶ前に、まずほめ方(※)をしっかり学びましょう」と伝えています。

しかしそれでも、どうしても叱らなければいけないときがあります。そのようなとき、例えば子どもに伝わるか。そのポイントを4つ紹介します。

※ほめ方は第3回・第4回で紹介しています。

1. 子どもを止めて、目を合わせて、きっぱりと。

子どもが走り回っているときに遠くから注意しても、子どもは全く聞いていません。注意するときは、まず子どもの動きを、止めて、目を見て、「これはいけないよ」と簡潔に、きっぱりと伝えることが大事です。



× してはダメ



○ してね



2. 「○○してはダメ」よりも「○○しようね」

私たちは、「○○してはダメ」とよく言います。しかしそれでは子どもは、どうすればいいのかわかりません。叱るときは、今後どうすればいいのかわかきちんと伝えることが大事です。そのためにも、「○○しようね」と言うのが効果的です。「廊下を走ってはいけない」ではなく、「廊下は歩こう」と言うのです。

3. 「あなたメッセージ」ではなく、「私メッセージ」

「あなたは何んでダメ人間なんだ」など、「あなた」を主語にして言うと、自分の存在全部を否定されたような気がして、カチンときます。そうではなく、「私はうれしい」「私は悲しい」と自分を主語にして気持ちを伝えると、子どもは「大人を悲しませたくない気持ち」が強いことから、素直に聞いてくれることがあります。

4. 注意は根気強い繰り返し

「子どもに一言で言うことを聞かせる叱り方を教えてください」と聞かれることがあります。確かに子どもに、大きな恐怖感を味わわせて叱れば、すぐ身につくかも知れません。しかしそれを、火遊びや車道に飛び出すなど、命に直結することとに用いるならまだしも、歯磨きしていないとか、宿題をやっていないことまで、大きな恐怖感を味わわせて叱ったらどうなるか。それこそ、いちばん土台になる自己肯定感をボロボロにしてしまいます。ですから日常のことはそこまで言わず、とにかく同じことを繰り返し伝えることが大事なのです。



大人からの伝え方